

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社RAIMU		
事業所名	グループホーム 来夢		
所在地	〒858-0923 長崎県佐世保市日野町732番地 (電話) 0956-28-4649		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(H21年 1月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成	15	年	10	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	6	人	常勤	6	人,	非常勤	人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木造	造り
	2	階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有()	円		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	50,000	円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300	円	昼食	300	円
	夕食	300	円	おやつ		円
	または1日当たり	1,000	円			

(4) 利用者の概要(1月 14日現在)

利用者人数	9	名	男性	1	名	女性	8	名
要介護1	1	名	要介護2	2	名			
要介護3	3	名	要介護4	3	名			
要介護5	0	名	要支援2	0	名			
年齢	平均	83.8	歳	最低	70	歳	最高	92

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田淵病院・たかひら外科・福田外科・まつぞえ歯科
---------	-------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保市郊外でも発展が大きい新旧の住宅地に囲まれて当ホームは存在している。施設長は強いリーダー的存在で、介護などに直面した地域住民や家族が「此处に相談すればアドバイスをしてくれる」という信頼関係ができています。職員教育にも熱心で「本人本意の介護とは」を常に職員に意識付けをされている。当ホームに併設として通所サービスがあり、新たに別の地区に開設された事業所との調整でホームの職員数が不足しているが、訪問した時の温かい雰囲気と職員の笑顔が入居者の居心地の良さを感じとられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートの作成はないが、前回評価時点の「改善を期待したい項目」について、思いや意向の把握について入居者の言葉で表現できない部分は、仕草や表情の微妙な変化を把握しプランに活かす取り組みをされている。現状に即した介護計画の見直しは、担当者会議を随時開催しているが、まだ十分とは言えない。災害対策への取り組み、備蓄の充実など取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員数の不足という状況で全職員で話し合う時間がとれず、今回は管理者が職員の意見を聞きながらまとめられた。外部、自己評価の必要性については十分理解されており、本年度はリスク委員会を設置し取り組まれる予定がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催されている。当ホームの状況や消防訓練、職員研修など取り組みについての報告や、会議参加者との意見交換や施設長に地域会議への参加要請などもある。施設長の地域貢献によって、地域住民に向けてホームの存在の意義が浸透している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	【グループホーム来夢】便りを毎月家族宛に送付されている。緊急時は速やかに連絡・報告をされている。便りを出す際に本人の生活状況を報告するだけでなく、ホームへの要望や意見、疑問を個別に聞き、家族面会時の機会に家族内の困りごと相談を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	平成20年度の自治会長に、施設長が担当され、積極的姿勢が「地域密着型」を地域全体に浸透させ、信頼関係の構築ができ、交流は盛んに行われている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社全体の理念とは別に「高齢者にとって大切な事」をテーマに(安全・安心・明るく楽しく毎日の生活を支援していく)を独自の理念として掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(安全・安心・明るく楽しく毎日の生活を支援していく)を全職員が共有、理解されており、日々のケアに意識付けされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成20年度は施設長が自治会の班長を1年間引き受けられ、積極的姿勢が「地域密着型」を地域全体に浸透させ、信頼関係ができていたため、交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員数の不足もあり職員全員で話し合う時間が取れなかったため、今回は管理者が職員の意見を聞きながらまとめられた。外部、自己評価の必要性については十分理解されており、本年度はリスク委員会を設置し本格的な取り組みを予定されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。当ホームの状況や消防訓練、職員研修など取り組みの報告、会議参加者との意見交換を行っている。その中で施設長に地域会議への参加要請などもある。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が「認知症介護」の指導者をされており、保健師や行政との連携は密に行われ、報告・連絡・相談も継続しておられる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	[グループホーム来夢]という便りを月1回定期で家族宛に送付し、行事予定や状況報告をされている。緊急時は速やかに連絡・報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の便りを出すときに、本人の状況以外に家族からの疑問や要望など個別に聞いているが殆どない。家族面会時は必ず話し合いをして家族内の困り事などでも聞いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年2月に同一法人の小規模多機能ホームを設立された。異動のため職員数が現段階では少ないが、3月から新規採用の職員が来る予定で、異動に関しては家族への紹介と入居者の能力に合わせて説明をされており、納得を得られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が研修、勉強会を3ヶ月に1回開催されている。自主参加だが全員参加され、向上心が伺える。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への職員の自主参加がされており、積極的なネットワーク作りをすすめられている。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>訪問時にも偶然、ご家族のホーム見学と入居申し込みがされていた。その後本人同伴で見学や雰囲気慣れてもらうことから徐々に馴染まれていく経過を大切にされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の意思を大切にしながら、できる事は手伝ってもらい、「おたがいさま」の気持ちを、入居者と職員は共有されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「自由とわがまま」の違いや常識の範囲内で共同生活をしていることを職員は念頭に置いて、本人の思いや意向の把握、表情や仕草の変化などで言葉に出せない思いを把握し、即座の判断と対応がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の担当制を導入されている。ご家族の意見なども取り入れながら、職員間の情報交換を大切にして本人本位の介護計画を立てられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の気持ちは常に同じではなく、流動的に変化しており毎日の対応も付随して変化を予測し計画にいれている。特に退院後の低下した心身状態を入院前のレベルに引き上げるような計画の変更はできている。</p>		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ病院への受診支援など柔軟に対応されている。特に施設長が認知症介護の指導者として地域に浸透しているため、支援が必要な方からの相談などを受けてアドバイスをされている。地域の介護以外の方面にも中心的存在になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療関連との連携は密に行われている。2週間に1回往診があり、かかりつけ以外の入居者の様子も診てもらえる。遠方の病院や眼科や皮膚科などの受診は家族が協力され、受診状況や医師からの説明も必要であれば電話で確認をされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の可能性が高くなれば、家族と医療側、ホームと相談を密接に行い、家族や本人が望まれればホームでの看取りを支援していく方向性がある。	○	職員の死生観の育成も必要で、家族とどの時点で看取りの希望を聞くのか今後検討をしていかれることを期待したい。特に看取りの指針を重要事項説明書や契約時の書類に追加されることに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーやその人の尊厳を守る意識を職員は常に意識され「言葉での拘束をしない」事も大切であると理解されている。入居者が見ている前で記録をしないなど「個人情報保護法」を認識した行動に気を付けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」「利用者中心にした介護」という意味のケアの実践に取り組まれている。職員の都合に合わせて入居者のペースを優先にして取り組まれており、職員不足の中でも業務と介護を両立する努力が見受けられた。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスと併設しており、厨房で調理された食事を木・日曜日以外は提供されている。木曜と日曜日は、職員と共に入居者が、下ごしらえや後片付けの役割を楽しんでいる。同じ食事を職員1名は食べられ、他の職員も入居者と一緒に食べて楽しい雰囲気を感じとられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を木曜・日曜日以外で対応されている。入居者の健康状態や本人の意向に沿って入浴を楽しんでいた。デイサービスでの入浴を時々希望されるとホーム職員とデイの職員が見守りや介助で対応され、喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当ホームには犬を屋内で飼われており、犬が嫌いだった入居者も可愛がるほどなついている。清潔面の管理は職員がされており、入居者は犬との触れ合いが癒しと楽しみ・気晴らしの支援となっている。イベントも多く貼り絵、食事時の世話などそれぞれに家事の分担としてやりがいを持たれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節の違いもあるが、犬の散歩は職員と入居者が、毎日されている。併設のデイサービスや隣接の高齢者施設との交流を持たれ外気に触れる機会を多く持たれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外は、居室にも玄関にもされていない。職員は常に入居者の所在確認と見守りをしており、センサーやベルなどもない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下で年2回火災訓練をされている。地域住民との交流が非常時の協力体制につながっている。自然災害時の備蓄もできている。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の厨房で作られており、ホーム職員に栄養士資格を持っている方が栄養バランスや残食のチェックをして必要時は荒い刻みや、大きな魚の骨をとるなどされている。水分摂取も随時チェックされている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などに季節の花や飾り付けをされている。玄関内外の手すりやスロープがあり、民家の雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者の個別性があり、それぞれに落ち着いた雰囲気を大切にされている。		